

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・月間の買上客数が久しぶりに前年同月の102.3%と伸張し、また秋のプライダル商品の注文が好調である。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・8月は夏物の整理を意図したセールを続けているため、セール品のまとめ買いがよく見受けられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が底をついたことや、連日の猛暑で飲料関係が近年になく好調であったことから、客単価が前年並みに回復している。
		一般レストラン（店長）	お客様の様子	・8月は花火や祭りなどのイベントが多く開催されたため、その行き帰りに寄る来店客が多かった。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・お盆休みのある8月はクラス会などでかなりの来店客があったため、売上は確保している。 ・客の態度をみると、不景気が浸透し、これが当たり前という感じになっている。また、客からは「仕事の厳しい状況が相変わらず続いている」という声や、業績が少々良い会社でも「国の法律が変わるため、先が不透明で分からない」などの話が聞かれる。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前年同月に行われた大型宴会が今年に行われなかったことから一般宴会は前年を大きく下回る。また、婚礼のオフシーズンに伴うサマープランの販売で受注件数が増加した婚礼部門と、観光客の増加により客室稼働率が6月より11ポイント増加した宿泊部門とレストラン部門は好調で、全体では前年を上回る見通しである。
	タクシー運転手	来客数の動き	・8月は七夕祭りを始めとする種々のイベントや恒例の同窓会などが開催され、終了後にグループ客が飲食街へ流れたため夜は遅くまで賑わった。 ・連日の猛暑により近距離でもタクシーの利用客が多く、予想以上に営業回数が上がった。	
	変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・8月はギフト商品が動くシーズンであるが、果物の需要と供給のバランスが崩れ、仕入れ価格が安くなっている。 ・婦人服店ではバーゲンにもかかわらず来店客が少なく、また仕入れを控えているため展示品の数も少ない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月は大河ドラマの効果で観光客の入込が多く、商店街も非常に賑わった。
		一般小売店〔果物〕（経営者）	来客数の動き	・贈答品の売行きがいまひとつである。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・7月と同様に8月もクリアランスやバーゲンが続いており、単価が非常に低下している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・食品は伸びているが、日用品は横ばい、衣料品は前年を下回っている。全体の売上は前年並みに推移している。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・DMなどにより需要を刺激しないと、来客数が極端に悪くなる。
乗用車販売店（総務担当）		お客様の様子	・新型車の発売効果により販売台数は伸びているが、客の動きに大きな変化はない。	
乗用車販売店（経理担当）		販売量の動き	・販売台数は前年をかなり下回った時期もあったが、現状では5%程度の減少で推移している。	
自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・チラシやDMを出しても客の反応が悪く、集客につながっていない。		
その他専門店〔酒〕（経営者）	競争相手の様子	・今年の中元戦線は前年に比べて3割減となったが、同業者の話でも同様である。		
その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・価格のみで来客数を増やそうとする昨年までの方針を改め、例えば通路を広くしてカートを利用しやすくするなど客の利便性を高めたり、医薬品や化粧品の専門性をよりアピールする販売員を増員するなどの対策により、来客数は伸びている。		
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・お盆の曜日が良かったこともあり、家族旅行を中心にランチ、ディナーともに前年並みの集客であった。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・夏休みの来客数は増加しているが、客の館内での消費額が前年より減少している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・利用客は週末を除き減少傾向のままであるが、長時間残業により売上の減少をカバーしている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・安い商品を求める客のニーズは根強く、低価格商品の販売シェアが高水準のまま続いている。
		テーマパーク（経営者）	来客数の動き	・客はテーマパークへは来るものの、必要と感ずる物でも買わず、財布のひもは固い。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅購入について中期、長期的に考えていた客の中に、間もなく着手してもいいという意識が少しずつ固まってきている。しかし、決断の局面では他社との競争により非常に厳しい値引き要求があり、なかなか成果が上がらない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・8月の契約棟数の目標は引き続き達成できず、前年よりも悪い。また、1棟当たり金額も小口が多い。
	やや悪くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・昨年はお盆前の週末が大きく伸びたが、今年はピークがなくてだらだら終わっている。帰省メニュー、ご馳走メニュー、お供えメニュー、お土産などを用意していたが、客の反応は弱く、例年のような盛り上がりが見られなかった。
		住関連専門店（店長）	お客様の様子	・来店する客もその場ではすぐに購入商品を決めない。また、高額商品の売行きも悪くなっている。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・6月の道路交通法改正以降、時間帯では深夜、商品では酒類やつまみの販売量が落ち込んだため、全体の売上が減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊部門では、稼働率は確保しているものの単価の低下が続いており、売上は減少している。レストラン部門では単価の下げ止まり感が一時みられたが、その後わずかながら低下傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・団体旅行の1人当たり単価が低下しているため、全体の売上でも減少傾向にある。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・8月はウイークデーのうち2日連続で入場者数が平常の約6割減となり、売上もワースト記録となった。入場客の遊興費が減少しているためと思われる。
	悪くなっている	設計事務所（職員）	お客様の様子	・客からの引き合いがほとんどゼロになり、また客へ提案しても非常に慎重な態度が返ってくる。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・夏物商品については、昨年の7,000～8,000円の平均単価が今年は5,000円を下回り、全体的に単価の低下が非常に目立っている。
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・閉店する同業者が増えている。	
企業動向関連	良くなっている	テーマパーク（職員）	単価の動き	・土産品などの購入が少なく、購入単価が5月以降極端に低下している。具体的には従来4、5個の土産を購入する客が多かったが、今は1、2個しか買わない傾向が強く、また売店内を見て回るだけで、そのまま帰ってしまう客も目立っている。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・7月の受注量が少なかった反動もあり、また8月は暑い日が続いたため後半にかけて飲料関係を中心にかなり追いつけた。
	変わらない	化学工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・配置薬業者向けの販売は全く変化していないが、ドラッグストア向けの販売は微増である。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注は若干回復したように見受けられるが、先々の受注がなかなか入りにくい状況である。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・当社の受注量は季節的要因で若干増加したが、公共土木工事の発注量が減少しているため、ほとんどの業者の受注量は前年同月比で半分になっている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・東京、大阪の大都市ではマンション工事の見積依頼が依然として多いものの、これ以外の工事の引き合いは少ない。また、公共土木工事の発注量は減少しており、受注高も低調に推移している。
輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・依然として受注価格の下げ止まりがない。		
新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・折込チラシの申込は依然低調で、求人関係のチラシも前年に比べ減少している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		司法書士	取引先の様子	・経営状態の良い会社では通信や人材派遣など新しい事業展開がみられ、また新しい店舗を開設するなどの話もある。しかし、まだ全体の動きとまでは言えない状況である。
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	競争相手の様子	・受注量の減少も問題であるが、主原料価格の高騰により業界全体の収益性が悪化している。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数が前年同月比で30%増加している。
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告件数が増加している。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・派遣会社からリピートによる掲載広告が多いため、一定の求人広告数を確保している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・最近及び前年のデータからみて、求人数、求職者数が落ち着いている。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は、前年同月比で約半分に減少している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・新規求人数が徐々に伸びている一方で、業績悪化に伴う解雇者や倒産企業が再び増加し始めている。また、減少傾向であった新規求職者数にも増加の動きがみられる。
悪くなっている	-	-	-	